

Working as a Periodontist in the States

Working as a Periodontist in the States

佐藤祥子
Shoko SATO



(さとう・しょうこ)
ICDフェロー
Le Cuyer and Amato
Periodontology department

私は、日本から一番近いアメリカ本土と言われる米国ワシントン州のシアトルで歯周病専門医として現在働いています。戦前のシアトルは、日本人の町と言われるほど日本人が多く住んでいたそうです。シアトルには、日本でも馴染みのあるAmazon、Microsoft、Starbucks、Costco、Alaska Airline、Expedia、Boeingなどの世界的に有名なIT企業や大企業の本社や工場があり、エンジニアや起業家が集まっています。2021年の米国国勢調査によるとシアトルの25歳以上で学士号以上の学歴保持者の割合は、64%だったそうです。

さて、アメリカの一般歯科医と専門医と言っても、歯周病専門医が行う治療内容を一般歯科医が行っても違法である訳ではありません。しかし、一般歯科の先生は、抜歯も含め外科処置をしない、という先生が多いように思います。また、患者さんも専門医に紹介されるというシステムに慣れている印象を受けます。

主に歯周病専門医がインプラントにまつわる手術をし、補綴治療は、紹介元の一般歯科医や補綴専門医の先生が行います。こう書くと、毎日抜歯とインプラントをやっているかの様ですが、現在私の仕事の半分以上は、歯肉の移植などインプラント以外の手術で占められています。

私の留学先であった南カリフォルニア大学では、ホマザデ先生が当時の歯周病・インプラント科の教授でした。ザデ先生は、VISTA法という歯肉移植法の考案者でもあり、私もこの手技を詳しく習いました。結合組織移植に興味を湧き、結合組織移植を修士論文のテーマにしたほどでした。このためか専門医として働き始め当初から、少しずつ結合組織移植の症例数が増え始め、一日のスケジュール全てが結合組織移植だった日があったほどです。

アメリカと日本の違いといえば、診療時間の違いもあります。アメリカの歯科院の開院時間は早く、大抵朝の7時が開院時間です。私も朝の7時から患者さんを診察します。この朝の予約を好む患者さんが多いことには驚きました。朝が早い分、午後4時には仕事を終えます。冬は車にスキーを積んで出勤し、仕事帰りに最寄りのスキー場に行ったこともあります。夏は午後9時過ぎまで明るいので、診療後にゴルフのラウン

ドに出かけたこともありました。

日本の歯科医療は、誰もが受診しやすく、保険内の治療であればアメリカのように高額になることはありません。このことは、患者さんが歯科医療を享受しやすく、良いことのように思えます。アメリカのように、高額な治療費を払えないために、不自由や不健康な状態で過ごすことを強いられることが日本では少ないの

ではないかとおもいます。しかし、高額な治療にならないように患者さんが必死で予防する結果、健康な状態が維持できる。治療費は高いけれど、治療の選択肢が広いということも、結局は、患者さんの利益につながることはないかとも思います。ICDの活動を通じて、日本の歯科医療に貢献していけたらと願っています。